

「親子で取り組むゆめポッケ」が終了

昨年から活動が休止されていた「親子で取り組むゆめポッケ」の終了がこのたび、本会一食平和基金運営委員会（委員長Ⓔ齊藤佳佑教務部長）から発表された。

1994年に始まった「愛のポシエツト運動」を前身とする同活動は、本会の小中学生が保護者と共に紛争で傷ついた世界の子どもたちの幸せを願い、布製の袋に文房具やおもちゃなどを詰めたゆめポッケを手作りするもの。国内で収集されたゆめポッケは、これまでに現地団体の協力で80万人以上の子どもたちに配付された。

しかし近年、各国の通関基準が厳格化し、ゆめポッケを検査に通せない事態が発生。同基金運営委は国内外の団体と協議を重ねてきたが、現地での継続的な配付が困難なことから、本部主管の「ゆめポッケ」の活動終了を決めた。

こうした中、同運営委では、新たに「ドリーム・ギフト」を開始。この活動の中で、日本の子どもたちが

新活動「ドリーム・ギフト」は今年度から

4月から8月の期間、「一食を捧げる運動」に参加し、実践する。そうして国内で集められた献金を使い、世界で紛争の影響により苦しむ子どもたちが最も必要とするもの（文房具や給食など）を現地で購入。日本の子どもたちが心を込めて書いた手紙（メッセージカード）と共にギフトとして贈る。日本からの献金と、ギフトの手配や配付は、現地で子どもたちを支援する団体に託される。さらに、ギフトを受け取った子どもたちから返礼の手紙やビデオメッセージが日本に送られる計画となっている。

「ドリーム・ギフト」には「ゆめポッケ」で大切にしてきた、子どもたちが世界平和に向けて主体的に行動するとの精神が引き継がれている。なお、教会の自主活動として「ゆめポッケ」を継続することは可能。ギフトの届け先や実施スケジュールなど詳細については、本紙で概要が発表される予定だ。

（佼成新聞デジタルで詳報）